





(ブラジル・サントス市長)

(ブラジル・サンパウロ市職員の方々)

(ウルグアイ・モンテビデオ市長・市職員および国会議員の方々)

2015年2月



(アルゼンチン・ブエノスアイレス市職員)

(アルゼンチン・メルセデス市長)

(アルゼンチン・ロサリオ市長)

(ドイツ・フランクフルト)













Ms. Setsuko Thurlow
giving her testimony at
Nayarit, Mexico



2014年12月核兵器の人的影響に関する国際会議（ウィーン）

平和首長会議のミニ原爆展 12月6日NGO会合及び12月8日非人道性
 会議開会式でサーロー節子さんスピーチ (被爆証言) 12月9日朝オーストリア
 国会議事堂でのスピーチ



ドイツ・ハノーバー市長との協議 (ハノーバー)

12月9日昼過ぎウィーン会議での
 一般演説



イラク・ハラブジャ
 市長と意見交換
 (ウィーン)

核兵器の人的影響に関するオスロ、ナジャリット、ウィーン会議を踏まえて

2013-14年開催の核兵器の非人道性に関する国際会議の議論の中で生まれた以下の展開に注目。

1. 広島・長崎の被爆者の方々の実体験と「誰にもこのような悲惨な目にあわせない。」との普遍的・人道的メッセージが、核廃絶運動を活性化。 ← 広島・長崎の被爆証言に心を動かされるが、安全保障は別問題。
2. 核兵器が事故・誤算またはテロリストにより使われる危険性の認識。 ← 核兵器は抑止の道具で、実際には使われないとの誤った思い込み。
3. 非核兵器国に生まれた核軍縮交渉への当事者意識。 ← 核軍縮交渉は核兵器保有国、特に米ソ（米ロ）の専権事項。





広島・長崎のメッセージ：

「このような思いを他の誰にもさせてはならない」
原爆による言語に絶する悲劇から紡ぎ出された核兵器廃絶への訴え。
誰人も平和に生きる権利があるとの主張。

平和の創造に必要な二つの方向性：

障害の除去：相互不信、憎しみの連鎖、核兵器
共通価値の創出：違いを超えて対話し、協力し、共通価値を創出

具体的には： 相互不信を前提とする「核抑止」の安全保障――→
相互信頼を促進する新たな安全保障体制

転換点は： 核兵器を法的に禁止する政治意思

国際的な潮流形成に必要なもの

市民社会の国際的な協働と為政者のリーダーシップ
広島・長崎の被爆体験と人道的メッセージが重要な原動力。

市民社会の運動が果たしてきた役割

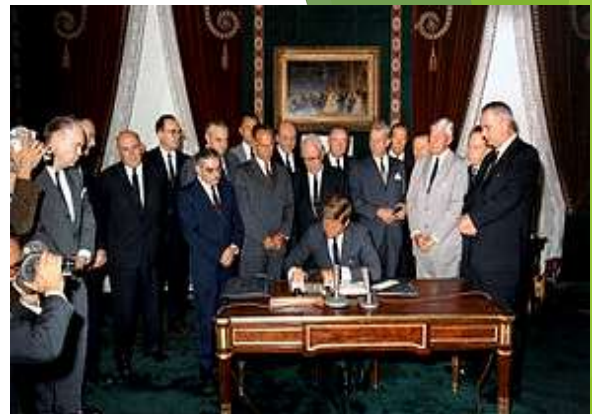
- ▶ 特に大国の為政者には、核軍縮政策を採用する意図はない。市民社会の圧力で不本意ながら受容。
圧力が不要だった少数の例外：ジャワハルラル・ネルー、オルフ・パルメ、ミハエル・ゴルバチョフ等。
 - ▶ 主権国家が対立しあう世界で、国の指導者は、核兵器を戦争のための兵器とみなし、戦争の備えを怠らない。
 - ▶ 市民運動と強化された国連が協同すれば戦争に走りがちな国を制御しうる。
 - ▶ 核軍縮運動の歴史を検証するとき、人間の可能性に畏敬の念をいだくことができる。
- (ローレンス・ウィットナー著「爆弾に抵抗して：世界の核軍縮運動小史」より)

反核市民運動の事例（ウィットナー「爆弾に抵抗して」より）

- ▶ 1945-53：米国における谷本清牧師の運動や世界連邦主義者の反核運動等。——>冷戦進展で運動は下火になるが核兵器保有国に核兵器の軍備管理・軍縮を導入させる契機を作った。
 - ▶ 54年3月1日ビキニ環礁での水爆実験による第5福竜丸被爆事件が核実験禁止運動の引き金。54年5月東京杉並区の読書会グループの主婦たちが始めた核実験反対署名運動が、3千万人規模の支持を集める。55年8月原水爆禁止世界大会（広島）。55年9月原水協結成。55年7月ラッセル・アインシュタイン宣言。57年7月パグウォッシュ会議設立。——>世界的な核兵器禁止運動を背景に、58年、米国・ソ連はそれぞれ核実験モラトリアムを宣言。キューバ危機を経て、63年8月、部分的核実験禁止条約締結。
 - ▶ 78年、米欧の反核運動を背景に、米国が中性子爆弾（欧州配備）開発計画をキャンセル。
- 87年INF（中距離核戦力）全廃条約締結←—欧米の市民運動とゴルバチョフの役割。

様々な活動形態

- ▶ 被爆証言
- ▶ 被爆体験の記録 ジョン・ハーシー「ヒロシマ」、蜂谷道彦「ヒロシマ日記」（米国で出版）、長田新編「原爆の子」、佐々木禎子さんと千羽鶴の記録
- ▶ 被爆事跡の保存 原爆ドーム、被爆建物、被爆樹木
- ▶ 文学 井伏鱒二「黒い雨」、峠三吉「原爆詩集」、原民喜「夏の花」、栗原貞子、太田洋子、エディタ・モリス「ヒロシマの花」
- ▶ 映画 「原爆の子」「ヒロシマ」「ヒロシマ・モナムール」「渚にて」
- ▶ 音楽 ムスタキ「ヒロシマ」、ヴィニシウス・ヂ・モライス「ヒロシマのバラ」
- ▶ 絵画 丸木位里・俊「原爆の図」、四国五郎、被爆者による被爆の絵
- ▶ 原爆展
- ▶ 署名運動



広島平和公園にある「原爆の子の像」は、被爆による白血病で十二歳の若さで亡くなった佐々木禎子さんの同級生が始めた募金活動で建てられた。日本全国の子供たちの真心の結晶である。平和への誓いの象徴であり、また、子供でも皆で力を合わせれば希望を実現できる証と言える。



ご清聴ありがとうございます。







